

令和8年度 かほく市立河北台中学校 学校評価計画

★は重点事項  
 肯定的な回答  
 ( ) 内の数はより肯定的な回答

重点目標	具体的取組	評価の観点	達成度判断基準	前期達成度	前々期達成度	分析・検証
			C又はDの場合、再検討	( )はより肯定的な回答	( )はより肯定的な回答	
1 学力向上に向けた取組の充実	① 校内研究会の充実  深い学びの実現に向けた、生徒主体の授業づくりと実践 (個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実)  生徒指導の4つの視点を基盤とした「わかる・できる」授業の実践	【努力指標】教職員 生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問・指導をしている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
		【満足度指標】生徒 授業は分かりやすい	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
		【成果指標】生徒 授業では、互いの考えを出し合い、話し合う活動を通じて、自分の考えが深まっている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
	② 1人1台端末の「日常化」と「高度化」  学習の個性化・協働化を加速させるICTの積極的・意図的な活用  情報活用能力の育成と、教科の学びを深めるデジタル・アナログのベストミックス	【努力指標】教職員 授業の中で、ICTの効果的な活用を工夫している。	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
		【努力指標】教職員 授業の中で生徒を見取り、具体的な支援や更に伸びる働きかけをしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満			
		【満足度指標】生徒 授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる (R7県目標値95%)	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
	③ 「学力向上ロードマップ」に基づくPDCAの確立  調査結果の多角的な分析と、学力向上プランに基づく組織的な指導の徹底・検証  評価問題等の有効活用による、単元ごとの確実な定着	【努力指標】教職員 学力向上ロードマップや学力向上プラン、学校評価に基づく指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満			
		【成果指標】生徒 授業では、「自分と同じ(違う)」「なぜだろう」「その根拠は？」など考えながら聞いている	A:80% B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満			
		【努力指標】教職員 授業の最後に「まとめ・振り返り」「適用・活用」を意識して行っている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満			
	④ キャリア教育の視点に立った探究学習の推進  自己の生き方を見つめ、将来の夢や志を育む「特別の教科 道徳」及び「総合的な学習の時間」の充実  地域人材・企業と連携した体験活動を通し、社会との繋がりを実感する学びの構築	【努力指標】教職員 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
		【満足度指標】生徒 将来の夢や目標を持っている	A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満			
	⑤ 「自己調整学習」へ繋がる家庭学習の確立  「あと一問の理解」を大切にす、粘り強い学習習慣の定着 自らの学びをマネジメントし、課題を主体的に解決する力の育成	【努力指標】教職員 宿題(提出物)に対して、コメントなどを通してフィードバックしている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
		【成果指標】生徒 自分で計画を立てて勉強している	A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満			

令和8年度 かほく市立河北台中学校 学校評価計画

★は重点事項  
 肯定的な回答  
 ( ) 内の数はより肯定的な回答

重点目標	具体的取組	評価の観点	達成度判断基準	前期達成度	前年前期達成度	分析・検証
			C又はDの場合、再検討	( )はより肯定的な回答	( )はより肯定的な回答	
2 自己指導能力の育成を目指す生徒指導	①「凡事徹底」を通じた基本的生活習慣の確立  自然な挨拶、清掃、ベル学の徹底 (生徒会や学年プロ委の主体的活動の活性化)  時を守り、場を清め、礼を正す態度の育成と、公共心の醸成	【成果指標】生徒 清掃活動に時間いっぱい取り組んでいる	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
		【成果指標】生徒 学校や家庭・地域でしっかりと挨拶や会釈ができている	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
	②自己指導能力を育む集団づくりとリレーションの強化  特別活動や帰りのホーム等を活用した、生徒が主役となる学級・学年経営の推進  互いのよさを認め合い、誰もが安心して自分を出せる「居場所」のある集団づくり	【成果指標】教職員 学年担当全員で生徒を育てていく体制ができている	A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満			
		【満足度指標】生徒 学校へ行くのは楽しい	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満			
		【満足度指標】保護者 お子様は、学校へ行くのが楽しいと言っている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
	③組織的な生徒理解に基づく「いじめ・不登校」への多層的支援 ★ 日々の丁寧な「見取り」と教育相談の充実による、小さなサインの早期発見・早期対応  生徒理解に基づく予防的・開発的生徒指導によるいじめ・不登校等の未然防止、早期発見、早期対応  SC、教育相談員、関係機関、及び「Sルーム」を核とした多機能な支援体制の構築	【成果指標】生徒 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満			
		【努力指標】教職員 いじめや不登校傾向等がないか、生徒観察と理解に努めている	A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満			
		【努力指標】教職員 生徒を認めたり、励ましたりしながら長所を伸ばす指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満			
	④個のニーズに応じた「組織的・計画的」な特別支援教育の推進  学校全体で組織的計画的な支援を進めるための校内支援体制の充実  個別の教育支援計画・指導計画を「生きたツール」とした、連続性のある一貫した支援	【努力指標】教職員 特別な配慮が必要な生徒の共通理解を図り、個に応じた指導・支援に努めている	A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満			
		【満足度指標】保護者 学校は、お子様をよく理解し、指導している	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			

令和8年度 かほく市立河北台中学校 学校評価計画

★は重点事項  
 肯定的な回答  
 ( ) 内の数はより肯定的な回答

重点目標	具体的取組	評価の観点	達成度判断基準	前期達成度 ( )はより肯定的な回答	前年前期達成度 ( )はより肯定的な回答	分析・検証
			C又はDの場合、再検討			
3 信頼される学校づくり	① コミュニティ・スクールを核とした「地域と共にある学校」の推進  地域人材の戦略的活用による、探究的・専門的な学びの充実  PTAや生徒会と連携したボランティア活動の実施	【成果指標】教職員 様々な体験活動において、外部人材が有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
		【満足度指標】生徒 授業や行事で専門家の人の話や活動は、より勉強になる	A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満			
	② 「開かれた学校」を実現する戦略的・多角的な情報発信  HPや学校だよりを通じた、生徒の「挑戦」と「成長」のリアルタイムな発信  校内掲示や参観機会の工夫による、学習プロセス(思考の跡)の積極的な公開	【努力指標】教職員 学校だよりやホームページ等で、教育活動や生徒の姿を発信している	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
		【成果指標】保護者 学校からの便りやHPで学校の指導方針や子ども達の様子などがわかりやすく伝わってくる	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
	③ 義務教育9年間を見通した小中連携による接続と深化  校区小学校との相互授業参観や、中学校教員による「体験授業」の計画的実施  学習規律や共通行動による、中1ギャップの解消と学びの連続性の確保	【努力指標】教職員 学校は小中連携を積極的に進めている	A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
		【成果指標】生徒 計画的に家庭学習をすすめることができている *学力向上の取組参考	A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満			
4 人材育成と教育の質を高める働き方改革の推進	① 若手ミドルリーダーの育成の計画的実践 ★  若手教員をメンターとした若手研修会の実施  OJTを通じた、実践的指導力と「学校経営参画意識」の醸成	【成果指標】教職員 若プロなど校内研修会が充実している	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
		【成果指標】教職員 学年や分掌等の取組について、教職員間の共通理解が図られている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
	② 「教育の質の向上」に直結する業務最適化の推進  業務内容の抜本的見直しと、業務量の平準化  ICTの高度な活用による「校務の効率化」と「情報の即時共有」の徹底	【成果指標】教職員 定時退校時刻や定時退校日を意識して業務を進めるなど、働き方改革に努めている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			
		【成果指標】教職員 ICT環境の整備で、業務が効率化されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満			